



「予防原則」の国際的な必要性

- これまでのリスクアセスメントの不備を補う考え方；科学的に因果関係が証明されない場合
- 人の暮らしのQOLに対応した、リスクの低い暮らし；21世紀型のリスクの低減のため
- GMOや成長ホルモンの新しい技術の利用における安全性の確認；潜在的なリスクが無知のため
- 子どもの健康を保護する予防システムの構築；化学物質の種類や環境濃度の増加や新技術による子どもへの負荷が増加しているため
- 複合汚染の不確実性が上昇している
- 貿易のグローバル化に伴う安全に対する考えかたの違いによる摩擦を解消するために、国際的な議論が必要